地域社会連携活動

地域社会連携活動の一つとして、城山校地で日常的に排泄される馬糞を堆肥化して活用した循環型経済活動に取り組んできました。具体的には、馬術部馬場の隣接地に「人馬のウェルビーイング農園」を開墾し、馬糞堆肥を用いて江戸東京野菜を栽培しました。地域住民の皆様へもその馬糞堆肥を提供しており、馬術部活動として単に競技での勝利を目指すだけでなく、地域社会連携にも力を注ぐ「新たな体育会」のあり方を示しています。

さらに、ソーシャル・イノベーションセンター（SIC）のプロジェクトとして「法政馬広場」の活動があります。地域の子供たちへ馬との触れ合いやウェルネス乗馬を提供できるよう、力を入れて取り組んでいます。



2022年12月11日　江戸東京野菜収穫祭@人馬のウェルビーイング農園



2026年10月17日　法政馬広場 for 寺田学童保育児童@城山放牧場

広域な地域連携活動

広域な地域社会連携としては、北海道新冠町の町役場との協働、そしてサラブレッド生産育成牧場の錦岡牧場との提携が、『人馬のウェルビーイング』を基軸とした産官学連携事業を形作っています。「引退競走馬のリトレーニング／グラウンドワーク」を基軸とし、引退競走馬のセカンドキャリア構築に関する研究に、産官学連携の下で取り組んでいます。

引退競走馬との触れ合いを通じた『人馬のウェルビーイング』の諸活動は、コミュニティスポーツ（現代福祉学部　専門展開科目）や社会連携フィールドワーク「引退競走馬のセカンドキャリア構築による人馬のウェルビーイング」、社会連携講座「スポーツビジネスとしての競馬がもたらす人馬のウェルビーイング」、社会連携プログラム「日本のサラブレッド産業の現場を考察する」（共に社会連携教育センター「SCOLE」）、という各授業を通じて学生の学習機会を創出することに加え、大学職員や高校生（付属校・協定校含む）、地域の小学生、幼稚園児など、学内外の様々な世代を対象に実施しています。



2026年2月22日　馬術部員と引退競走馬ヤマニンマヒア@HORSE MESSE TOKYO 2026



2026年8月4日　社会連携フィールドワーク
引退競走馬のセカンドキャリア構築による人馬のウェルビーイング@城山馬場

国際連携事業

国際連携事業では、マレーシアにおける馬を通じた障害者支援に資する人材育成に向けて、JICA海外協力隊事業にも取り組んでいます。『人馬のウェルビーイング』の理念を基に、マレーシアの大学や市民団体との連携を深化させた上で、同趣旨の活動を東南アジアで広く展開すべく、国際的なネットワーク化の基礎を築くことを目的としています。

以上をはじめとした多岐にわたる活動により、学内外のパートナーの皆様と共に『人馬のウェルビーイング』の輪を広げ、スポーツ・レクリエーションと教育・研究を融合させ、人馬双方の健康で幸福な暮らしの実現を目指して参ります。



マレーシアJICA海外協力隊　柿沼うらら隊員の活動@マレーシア障害者乗馬協会
（写真：JICAマレーシア事務所ウェブサイトより転載）



2026年9月17日　現代福祉学部　専門展開科目　コミュニティスポーツ@城山馬場
Dr.DICKY CHRESTHOVER PELUPESSY（インドネシア国立大学心理学部学部長）視察